

# 書評

[評者]  
**鈴木富雄**  
大阪医科大学附属病院総合  
診療科



## テイラー 10 分間 鑑別診断マニュアル 第 3 版

原著：Taylor's Differential Diagnosis  
Manual ; Symptoms and Signs in the  
Time-Limited Encounter, 3rd ed

小泉俊三 監訳

● A5 変 頁 568 2015 年  
定価：本体 6,400 円＋税  
[ISBN 978-4-89592-809-0] MEDSi 刊

外来診療のマニュアルとして評判の高い本書の第 3 版がこの度翻訳され、手元に届いた。

第 1 章「10 分間診断の基本原則」の部分は、初版から記述された内容とのことであるが、この基本原則は最新版でも残され、ある意味本書のなかで最も重要な章となっている。「診察中ずっと診断のきっかけとなる鍵を探し続けよう」、「まず最もありふれたことを考えよう」、「利用可能な援助はすべて使おう」、「問題の心理社会的側面を考慮しよう」、「助けが必要なときには助けを呼ぼう」、「連続的に進化する診断という枠組みのなかで考えよう」。テイラー先生は平易な語り口で基本原則を問いかけてくるが、その内容は日夜外来診療に従事する私たち医師にとって極めて有益で多くの示唆に富み、診療に対して不安を抱いている研修医のみならず、20 年選手のベテラン勢にとっても、間違いなく心に響くメッセージとなっている。この最初の数ページにわたる基本原則の章に目を通すだけでも、明日から診察室に入る心持が違ってくる。

第 2 章以降は、徴候や疾患に対するアプローチが各論的に記載されているが、特筆すべきは取り上げられている徴候や領域の広さと多様性である。精神科、婦人科、眼科、耳鼻科、皮膚科、整形外科など、内科的領域ではないが実は一般内科外来で結構な割合で遭遇しうるさまざまな問題に対しても、しっかりとカバーされている。さらに、それらの多彩な問題に対するアプローチが統一された形で詳細かつ明瞭に記載されている。背景、病態生理、評価、診断の順番に項目が並べられ、評価の部分は病歴、身体診察、検査の形でまとめられており、非常に読みやすく参照しやすい。異常な検査データや画像検査結果へのアプローチも詳しく取り上げられているのはうれしい驚きである。

2017 年度から開始される新専門医制度の主役ともいえるべき「総合診療専門医」の特徴は「扱う問題の広さと多様性」とされている。本書はまさに、新たな時代の新たなキャリアに進む多くの医師たちのバイブルになりうる一冊である。